

談話辞 actually の機能の展開

松 尾 文 子

1. はじめに

actually は現代英語で最も頻繁に用いられる語の一つである。MED の見出し語でも使用頻度が最も高い語に属する。Quirk et al. (1985) では、actually は多機能で、用いられる位置も文頭・文中・文尾と様々で、adjunct、subjunct、disjunct のいずれの用法をも持つ副詞であるとする。

使用域に関しては、Biber et al. (1999: 869) で集められたコーパスによると、Fiction、News (Am E & Br E)、Academic writing でも多く用いられるが、会話での使用が圧倒的に多い。また LDCE⁴ でも、書き言葉より話し言葉での使用が圧倒的に多いとする。

本論では、元来は強意副詞であった actually の談話辞としての用法と、談話辞として多機能的に用いられるようになった展開を論じる。

2. 談話辞の機能の展開

本論では「談話辞」という用語を用いるが、実は談話辞の呼び名についても、どのような項目が談話辞であるかについても見解の一致を見るに至っていない¹。接続詞や接続副詞は語句の連結のみならず、文や談話レベルでの連結機能を持つ。談話レベルの連結機能を持つ語句を、談話辞 (discourse marker, discourse particle)、接続語句 (connective) などと呼ぶ。

談話辞の主な特徴の一つに、多機能性がある (Aijmer 2002: 19-26)。これは、談話辞が様々なレベルで機能することに起因する。Sweetser (1990) [認知論的アプローチ] では、談話辞は、①現実 (内容) 領域 ②認識領域 ③言語行為 (会話) 領域の3つの領域のうち、(少なくとも) 1つの領域で作用するとしている²。Schiffrin (1987, 2001/2004) [談話分析的アプローチ] によると、談話辞は談話モデルの単一あるいは複数の plane で作用する。plane には、①information states ②participation framework ③act structure ④exchange structure ⑤idea structure がある³。Bordernia (2006) [機能文法的アプローチ] は、接続語句 (談話

辞)は文や談話を純粋に接続する central なものから純粋な接続機能が弱い peripheral なものまで段階的に存在すると述べる。話題転換や対人的な機能を持つものは、peripheral な項目である。また、Traugott 他の文法化の観点からすると、談話辞は命題の意味からテキスト的・対人的機能への変化を経た語彙項目である。

本論でも、談話辞の機能は、論理的・意味的な連結から話し手の態度を表す機能、テキスト構成機能、対人関係機能へと展開して行くという立場を取る。

3. Aijmer (2002) の分析

actually はもとは副詞だったが、文法化を経て談話辞 (discourse particle) になった (251)⁴。中核的な意味は、現実と真実であろうと思われていることの中にズレがあるということであるが、談話辞としては actuality や reality (現実世界)、主張の真実性に言及しているのではなく、話し手が視点を変えたりこれから言おうとしていることに注意を引くために用いる (252)。

ただ、談話辞と副詞の区別は困難であるとし、文において現れる位置によって区別している。文中で用いられる場合は命題や単一の要素と関連があり副詞、文頭や文尾で用いられる場合はテキスト的・対人的機能を持ち、談話辞であるとする (253)⁵。本論でも談話辞は通例文頭、あるいは文頭より頻度は下がるが文尾で用いられると考えるが、テキスト的・対人的機能以外に、話し手の態度を表す機能も有すると考える。話し手の態度を表す機能を持つ場合は Aijmer では文副詞とし、文法化の観点からすると、強意副詞と談話辞の中間に位置する⁶。本論では文副詞も談話辞の範疇に入れる。

4. 談話辞 actually の機能の展開

actually の原義は、「ある状況が(常識などに照らして)本当である、物事が(単なる想像や計画の一部ではなく)現実に存在している」ことを強調するものであり、強意副詞として「実際に、本当に」の意を表す。

談話辞として用いられるとまず、話し手の態度を表す機能を持つようになる。表される態度を大別すると2種類ある。1つは、真実性や事実性を強調するもので、先行発話を支持して明確化・正当化・陳述追加し、「実は、実を言うと」の意になる (5.1.)。この用法は、強意副詞の意味を強く残している。もう1つは、予想や見せ掛けと現実とのズレを強調する。話し手は先行発話で表される予想や見せ掛けと、actually を含む発話で表される真実や現実との間のずれを認識し、意外感や驚きの気持ちを抱いて真実や事実を再確認する。「実は、実際は」の意になる (5.2.)。前者は and actually と、後者は but actually とパラフレーズできる (Aijmer 2002:

265)。いずれも「強調」であることには変わらないが、話し手の思考の方向が異なる。

actually はさらに、テキスト構成機能を持つようになる。actually 以下で予想に反した、すなわちそれまでとは異なる事柄を示すことから、新しい情報を提示し、話題を転換することになる (6.)。

さらに対人関係機能では、一種の丁寧表現となる (7.)。actually を含む発話で聞き手の予想に反する内容を述べることから、聞き手にとって意外性のある事柄を述べることを予め合図することによって、聞き手の驚きや不快感を軽減できる。

談話辞 actually は、通例コンマを伴って、あるいは伴わずに文頭で用いられるが、文尾で用いられることもある。文尾で用いられる場合は、‘floor-holder’ の役割を果たし、話し手と聞き手の関係を調整する social function を持つ傾向があり、下降上昇調になる (Aijmer 2002: 258, 263)。ただし、テキスト構成機能を担う場合は、もっぱら文頭で用いられる。actually は後述するように新しい話題を導入する合図となり、談話を展開させる機能を持つので、文中で最も目立つ位置、すなわち文頭で用いられる。

言語使用域としては、特に英国語法の話し言葉で用いられることが多いが、学術的な文章ではあまり用いられない (Biber et al. 1999: 867; Swan 2005: 145)。一般的に正式なスピーチや書き言葉では避けた方がよいとされるが、重要な語句を効果的に伝えることができるので、一概に無駄な語であるとは言えない (Todd 1997: 10; Manser (ed.) 1988: 5; *Webster's Usage*)。

ただ、多用しすぎると話し手が自分の述べることに對して自信を持っていないような印象を与えることがあり、非難されることもある (Aijmer 2002: 272; Schourup & Waida 1988: 146)。

以下、actually の機能の展開に即して、具体的な用法を考察して行く。

5. 話し手の態度を表す機能

5.1. 真実性や事実性の強調

先行発話の内容を actually 以下で明確化・正当化する陳述を追加することによって、先行発話の真実性や事実性を強調する。「実際に、本当に」の他に「実を言うと、詳しく述べると、さらに言うと」の意を表す。

- (1) a. [a customer at the information desk in a large bookshop enquiring about a technical manual] “Could you tell me where your manuals are kept? *Actually* I’m looking for a Haynes manual.” (Carter & McCarthy 2006: 29) (マニュアルはどこにあるか教えていただけますか。実は、ヘインズのマニュアルを探しているのです)

- b. “Is her office phone number listed?” Benton asks. “Infosearch Solutions is.”
 “So maybe he also knows the listed name of her business. Called directory assistance and got the address that way. *Actually*, you can find just about anything on the Internet these days.” (P. Cornwell, *Blow Fly*) (「彼女のオフィスの電話番号は(電話帳に)載っているのか?」とベントンは尋ねた。「インフォサーチ・ソリューションズはね」「それなら彼はたぶん彼女のやっているビジネスで載っている名前も知ってるんだ。そうやって電話番号案内サービスで住所を知ったんだろう。実際、最近インターネットで何でもわかるからなあ」)
- c. “The Temple Church is on Fleet Street?” “*Actually*, it’s just off Fleet Street on Inner Temple Lane.” (D. Brown, *Da Vinci Code*) (「テンプル教会はフリート街にあるのか」「厳密に言うと、フリート街からインナー・テンプル通りへ少し入った所だ」)

いずれの場合も、新しい話題を提供した後に、さらに詳しい情報を付加している。この用法の *actually* は、自らの発言の中で自分の述べたことをさらに詳しく説明するために用いられることが多い。音調は下降音調である (Aijmer 2002: 262)。

(1) のように、通例コンマを伴って、あるいは伴わずに文頭で用いられるが、文尾や挿入的に用いられることもある。

- (2) a. “Did Tessa confide in anyone, do you know?” Lesley asked in a by-the-by tone as they all three moved in a bunch toward the door. “Apart from Bluhm, you mean?” “I meant women friends, *actually*.” (le Carré, *The Constant Gardener*) (「テッサには本心を話せる人はいたのか、ご存知ですか?」3人でそろってドアの方へ歩きながらふと思い出したかのようにレズリーは尋ねた。「ブルームの他に、という事か?」「女友達のことを言っているのです、実は」)
- b. The French never care what they do, *actually*, as long as they pronounce it properly. (A.J. Lerner, *My Fair Lady*) (フランス人というのは、自分の行動に全然注意を払いません。ただし、きちんとした発音ができればのことですがね)

次例のように、先行の語句をより正確に、あるいは詳しく説明する場合にも *actually* が用いられる。

- (3) At the third desk sat Charlie’s ‘partner’, *actually* an employee. (L. Fleischer,

Rain Man) (3番目の机に座っていたのは、チャーリーの「共同経営者」、いや正確に言うと従業員だった)

前言の内容を明確化したり正当化する場合には、*to tell you the truth*、*I think* などと共起することが可能である (Aijmer 2002: 269-279)。

この用法の *actually* は発話の真実性を強調する語であるので、話し言葉では話し手の断定の気持ちを強めるために添えられることが多い。

- (4) a. EMI: I suppose you must be very tired today after staying up so late last night.

(夕べ遅くまで起きていたから、今日はきつととても疲れているんでしょうね)

GEN: *Actually*, yes, I am. (実を言うとね、その通りなんだよ)

(Schourup & Waida 1988: 140)

- b. “Did you enjoy your holiday?” “Very much, *actually*.” (Swan 2005: 7) (「休日は楽しかったですか?」「もちろん、すごく」)

(4)のように、応答に対する答えで用いられることが多く、通例コンマを伴って、あるいは伴わずに文頭で用いられるが、文尾で用いられることもある。聞き手の予想が正しいことを示すことになる。

5.2. 予想と現実のズレを強調

この用法では、話し手が見せ掛けと真実、予想と現実、見込みと正確さなどの間にズレを認識し、意外性や驚きの気持ちを込めて、真実や事実を再確認する。「実は、実際は、実を言えば」の意を表す。音調は通例、下降上昇調 (ときに平板調) となる (Aijmer 2002: 262)。

- (5) a. “Hello, John. Nice to meet you.” “*Actually*, my name’s Andy.” (Swan 2005: 144)

(「こんにちは、ジョン。会えて嬉しいよ」「実は、私の名前はアンディなんです」)

- b. “How well did you know Jacques Sanière?” the captain asked. “*Actually*, not at all. We’d never met.” (D. Brown, *Da Vinci Code*) (「ジャック・ソニエールとはどのような知り合いなんだ?」と(司法警察中央局)警部は尋ねた。「実は、全く知らないのです。会ったこともありません」)

このように、話し手がこれから述べようとするのが聞き手の予想や予測、既に述べられたことや考えられたことに反することを表し、聞き手にとって意外で驚くようなことを伝える場合に用

いられる (Sinclair (ed.) 2004: 9; Alexander 1988: 17)。したがって、次例のように聞き手の期待通りの発話に actually を添えるのは通例不自然である (Alexander 1988: 17)。

(6) a. A: Sir, may I have your name please?

B: **Actually*, it's Jack Rogers.

b. Eva: Here's your birthday present.

Bob: **Actually*, it's quite nice. (Schourup & Waida 1988: 142)

さらに、actually は予想と異なることを述べる合図となるので、聞き手が既に知っている旧情報と共に用いられない。

(7) How can your boss expect you to work late again, Gen? **Actually*, you worked late every night last week! (Schourup & Waida 1988: 149)

ここでは、「あなたは先週毎晩遅くまで仕事をしていた」ことを伝えるだけの文として用いるのはおかしい。

この用法の actually は発話の内容に関する意外感を示すだけでなく、しばしば発話条件と関わる。

(8) a. "Tell me, Oliver, have you heard from the Law School?" "*Actually*, Father, I haven't definitely decided on law school." (E. Segal, *Love Story*) (「教えてくれないか、オリバー、法科大学院から(合格の)通知があったんだろう?」「実はね、父さん、法科大学院に進むとはまだ決めていないんだよ」)

b. "Let me ask you a question," I said. "*Actually*, you already did." (L. Block, *The Burglar in the Rye*) (「一つ聞かせてくれないか」と私は言った。「実のところ、もうすでに聞いたんじゃないの」)

(8a) では疑問文の応答文で用いられ、疑問文の前提条件(法科大学院から合格通知があるには、志願していなければならない)が覆される事柄が、actually 以下で述べられている。(8b) では、命令文を発話する前提条件(命令文では、これからすることを命令する)が覆されている。

このような意外性や驚きを表す用法では、対比や対照を表す接続語 but や however を伴ったり、先行部分に異なる観点を示す文副詞の apparently、formally、nominally、technically、

theoretically などを用いることができる (Aijmer 2002: 267; Greenbaum 1969: 206)。

- (9) a. “You sure that’s not just some Harvard bullshit way of saying Mona Lisa is one ugly chick.” Now Langdon laughed. “You may be right. *But actually* Da Vinci left a big clue that the painting was supposed to be androgynous.” (D. Brown, *Da Vinci Code*) (「モナ・リザが醜いオカマだってことをハーバード風に気取って言い換えただけなんだろ」これを聞いてラングドンは噴き出した。「そうかもしれません。しかし実は、この絵が両性具有だということを示す大きな手がかりを残したんだ」)
- b. *Officially*, he is in charge. *Actually*, his secretary does all the work. (Quirk et al. 1972: 676) (公式には彼が担当だが、実際には秘書が仕事は全てやっている)

また、相手の意見を訂正したり反対意見を述べる場合、actually を用いると no と呼応して反対意見であることがより明確化される。

- (10) a. *No*, I’m not a student. I’m a doctor, *actually*. (*COBUILD*⁵) (いいえ、私は学生ではありません。実は、医者なのです)
- b. *Well, actually*, you still owe me \$200. (*CALD*)

(10b) では相手の意見を訂正する際にためらいを表す well を添えることによって、一種の丁寧表現になっている。詳細は 7. の説明、及び例を参照されたい。

6. テクスト構成機能

5.2. で述べたように、actually の前件からすると後件は予想外のことを述べる、すなわち後件では前件とは異なることが示されることから、テキスト構成レベルでは actually は新しい話題を導入する機能を持つ。

- (11) a. *Actually*, on second thought, I don’t think I want to go out tonight. (*LDCE*⁴) (実はね、考え直して今夜は出かけないことにしたよ)
- b. [beginning of a one-to-one student tutorial at a university; A is a student]
 A: Where would it be best for me to sit? (どこに座ればよろしいですか)
 B: Um, anywhere there’s a space. (うーん、どこでも空いている所に)

[pause]

A: Well, *actually* there's a couple of things really really quickly to ask you. (さてえーと、実は今すぐに君に尋ねなければならないことが2・3あるんだ)

(Carter & McCarthy 2006: 29)

(11) の *actually* は、7.で述べる対人関係 一聞き手にとって良くないことをこれから述べることを予め知らせる一レベルでも機能すると同時に、テキスト構成レベルでは新たな話題を導入する合図となる機能を果たしている。

7. 対人関係機能

5.2.で述べた用法では予想と現実のずれを強調するため、*actually* を用いることにより聞き手にとって意外性のある事柄を述べることを予め合図することになる。その結果、聞き手の驚きや不快感を軽減し、一種の丁寧表現となる。

相手の発言や予想を訂正したり反対意見を述べる場合に、*actually* が用いられる。*actually* を添えることで、話し手は聞き手の立場から予想や期待に反した事実を述べることになり、話し手との関係を調整する丁寧表現になる。

(12) a. "Here's the £50 I owe you." "Well, *actually* you owe me £100!" (Alexander 1988: 17) (「お借りしていた50ポンドです」「あ、実は100ポンドお貸しているのですが」)

b. Langdon nodded absently and took a few steps toward the bench. He paused, looking more confused with every moment. "*Actually*, I think I'd like to use the rest room." (D. Brown, *Da Vinci Code*) (ラングドンは放心したような感じでうなずき、ベンチに2・3歩近づいた。そして立ち止まったが、刻々と混乱が増していくようだった。「実は、トイレに行かせてもらいたいののですが」)

c. "Something's come up, I'm afraid, Sandy. I wondered if I might pop down a moment *actually*." (le Carré, *The Constant Gardener*) (「困ったことが起こってしまったのですが、サンディ。今そちらにお伺いしたいのですが」)

このように *actually* は文頭や文尾で用いられるが、文尾の方が丁寧な言い方となり、音調は通例、下降上昇調である (Aijmer 2002: 258, 275)。なお、ためらいを表す 'well'、'I think I'd like to'、'I wondered if I might' のような丁寧表現と共起していることにも注意されたい。

追加陳述的に自らの前言を取り消す場合にも用いられる。(13a) では、「金曜日に電話してくれないか」と告げていたにもかかわらず、別れ際にそれを訂正している。

- (13) a. *Actually*, give me a call Thursday. (Schourup & Waida 1988: 146) (いややっばり、木曜日に電話してくれないか)
- b. “Take a look at Miss Cledeenin’s book about Johathan, the part where she talks about his playin’ around with young girls. *Actually*, don’t read it if you’re squeamish.” (W. Harrington, *Columbo: The Hoover Files*) (「ジョナサンについてのクレデニンさんの本をちょっとご覧下さい。ジョナサンが若い女性と遊び回っていることを語っている部分ですよ。いえ、もしすぐ気分が悪くなるような方なら、読まないでください」)

この場合も、*actually* を用いることによって、これから前言とは異なる事柄を述べることを予め聞き手に合図するので、突然自分の主張を翻して新たに異なる主張をするよりも丁寧な表現となる。

聞き手にとって好ましくない情報を柔らかく伝えるということで、謝罪を表す発話や申出を断る際にも *actually* が用いられる。

- (14) a. “How did you get on with my car?” “*Well, actually*, I’m terribly sorry, I’m afraid I had a crash.” (Swan 2005: 8) (「僕の車、どうなったんだい?」「あとう、実は本当にすまないんだけど、ぶつけてしまったんだ」)
- b. “Do you mind if I smoke?” “*Well, actually*, I’d rather you didn’t.” (CALD) (「タバコを吸ってもいいですか?」「あとう、実はやめてもらいたいんですが」)

このように、ためらいや思案を表す *well* としばしば共起するほか、(14a) では ‘I’m terribly sorry’ ‘I’m afraid’、(14b) では ‘I’d rather’ のような婉曲的な表現も用いられている。(12) の例も参照されたい。

8. おわりに

元来強意副詞であった *actually* が、その作用域が語句レベルから文、談話レベルへと広がり、と談話辞としての様々な機能が生じる。話し手の態度を表す機能では、発話内容の真実性や事実性を強調する場合と、予想や見せ掛けと現実とのズレを強調する場合がある。このように相反す

る機能を持ちうるのは、actually の場合は「強調」に関する話し手の思考の方向が逆向きに働いているからである。同様のことは、談話辞 in fact においても見られる⁷⁾。

さらにテキスト構成機能を持つようになると、actually に先行部分で述べられていたのとは異なる新しい話題を導入する。対人関係機能では、聞き手にとって意外性のある事柄を述べることを actually を用いることで予告することになり、一種の丁寧表現となる。話し手と聞き手の人間関係を調整しているのである。

注意すべきことは、actually が本論で述べたいいくつかの機能のうち1つの機能を果たすこともあるが、同時に複数の機能を担う場合もあるということである。強意副詞と談話辞の境界も曖昧であるが、談話辞の機能に関してもそれぞれの機能が clearcut に存在しているのではなく、重複する場合もある。

以上、談話辞 actually の機能の展開を論じた。

注

- 他に、次のような用語が用いられる。discourse operator, discourse particle, pragmatic connective, pragmatic operator, pragmatic particle, sentence connective など。
- discourse marker は語用論的に曖昧で、単一の核になる意味を持つものもあるが、語用論的領域では複数の機能を持つことがある。3つの領域 (domain) は以下の通りである。①propositional domain (現実 (内容) 領域) : 外的、社会的、物理的領域。現実世界の事象や実態 ②epistemic domain (認識領域) : 話し手の心的態度を表す話し手の推論に関わる領域 ③speech act domain (言語行為 (会話) 領域) : 話し手から聞き手への言語行為の場で、話し手が行う言語行為に関わる (Sweetser 1990: 30, 78-82)。
- 談話モデルにおける plane は以下の通りである。①information states : 情報の状態 ②participation framework : 参加者の枠組み ③act structure : 行為の構造 ④exchange structure : 話者交替の構造 ⑤idea structure : 認知の構造 (Schiffrin 2006: 317)。
- 元来は動詞句修飾語 (強意語) であるが、修飾のスコープが広がると evidential adverb (文副詞) になり、さらに文頭や文尾などの新しい位置に生じるようになると同時に、意味は語用論的に富化 (enrich) される (Aijmer 2002: 254)。
- 文法化によって、actually は強意副詞から文副詞・談話辞へと展開。actually の修飾のスコープが拡大し、文頭や文尾に置かれるようになった (Aijmer 2002: 254)。
- actually と文法化 (Aijmer 2002: 254)

VP modifier	→	Sentence modifier	→	Discourse particle
Least subjective	—————→			Most subjective

[cf. Traugott 1999:189]

- in fact には大まかに言って二つの用法がある。先行文で述べられる事実や状況に関して詳しく正確な説明を補充する「補強用法」と、先行文で述べられる事柄とは相反する情報が提示され、先行文で述べられたことを訂正する「矛盾用法」である。一見したところ相反する用法であるが、「前文の内容の明確化」が in fact の共通した意味である (cf. Schourup & Waida 1988: 64, 67)。このよう

に、一見相反する機能を果たす談話辞が他にもあると思われる。

参考文献

- Aijmer, K. 2002. *English Discourse Particles: Evidence from a corpus*. Amsterdam: John Benjamins.
- Alexander, L.G. 1988. *Longman English Grammar*. London: Longman.
- Biber, D., S.Johanson, G. Leech, S. Conrad & E. Finegan. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman.
- Bordenia, S.P. 2006. "A functional approach to the study of discourse markers." In K. Fischer ed. *Approaches to Discourse Particles*. pp. 77-99. Amsterdam: Elsevier.
- Carter, R. & M. McCarthy. 2006. *Cambridge Grammar of English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Greenbaum, S. 1969. *Studies in English Adverbial Usage*. London: Longman.
- Manser, M.H. 1988. *Bloomsbury Good Word Guide*. London: Bloomsbury.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G.Leech & J. Svartvik. 1972. *A Grammar of Contemporary English*. London: Longman.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G.Leech & J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Schiffrin, D. 1987. *Discourse markers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Schiffrin, D. 2001/2004. "Discourse Markers: Language, Meaning, and Context." In D. Schiffrin, D. Tanner & H.E. Hamilton eds. *The Handbook of Discourse Analysis*. pp. 54-75. Massachusetts: Blackwell.
- Schourup, L. C. & T. Waida. 1988. *English connectives*. 東京: くろしお出版.
- Sinclair, J.(ed.) 2004². *Collins COBUILD English Usage (for Learners)*. Glasgow: Harper-Collins.
- Swan, M. 2005³. *Practical English Usage*. London: Oxford University Press.
- Sweetser, E. 1990. *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Todd, L. 1997. *The Cassell Dictionary of English Usage*. London: Cassell.

参考辞書

- Cambridge Advanced Learner's Dictionary*. 2003 Cambridge: Cambridge University Press. [CALD]
- Cambridge International Dictionary of English*. 1995. Cambridge: Cambridge University Press. [CIDE]
- Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary*. 2006. London: Harper-Collins. [COBUILD⁵]
- Longman Dictionary of Contemporary English*. 2003. London: Longman. [LDCE⁴]
- Macmillan English Dictionary*. 2002. New York: Macmillan. [MED]
- Webster's Dictionary of English Usage*. 1989. Springfield: Merriam. [Webster's Usage]